

観光

仙石原「温湯」付近の整備について

石川 栄

Q すずき草原で心を癒し、通過する観光客に対し、新たな余暇レクリエーション施設づくりが必要となってきた中、町が所有する温湯周辺について詳細な調査をしたことがありますか

A 温湯園地については旧企業庁と等価交換により昭和62年に取得、自然探勝ゾーンとして位置付けた。水辺には野鳥、湧水池5箇所内の一つの池で冬でも20度近い水温によりエビ、ザリガニ、カワナナが増殖。初夏には蛍が自然発生し、人為的に持ち込まれた熱帯魚のグッピーまでもが繁殖している。今後も貴重な自然として調査していく。

関係機関と連携して情報収集に努める。町としては温湯一帯を売却する考えは持っていない。

Q 温湯の2,000坪近い町有地は今後貴重な観光資源になると考えるが浄水センター、温湯、ダルマ石一帯の公園化を願うわけですが子どもたちの危険防止も考慮し、湧水池周辺の整備が早急に出来ないでしょうか

A ハコネダケ、ウツギ等は繁茂するため、春秋2回刈り込みをしている。今後も定期的に補修整備をしていく。すずき草原等の観光スポット、それらと点を結んだ線として観光客の回遊性を高めていきたい。

Q アジア系バイヤーがあったと耳にしたが町はそれについて確認していますか



温湯(ぬくゆ)周辺

A 都市計画法、公園法の指定により開発が難しい土地である。今後

企画総務

ITを活用した電子自治体の実現について

山田 成宣

Q 当町において、今後の電子自治体の最終目標は

A 最終的にはすべての行政手続をオンラインによって24時間行うことができるようにするということがある。高齢者等、情報化に不慣れな方への対応をどうするか、情報セキュリティをどう確保するのか等、超えなくてはならないハードルがある。国県などとも連携をとりながら、適切に対応してゆきたい。

現在の進捗状況は

A 昨年度発生した東日本大震災を教訓に、停電によるネットワーク停止を最小限にするため、庁舎の非常用電源とは別に外部のネットワーク接続に必要な機器のみを稼働させるバックアップ電源の導入を検討していく。今年度は現行システムのさらに安定した運用管理とともに、電子申請や基幹業務システム

の大きな更新のために、外部ネットワーク回線の再構築や必要な機器の選定を行っていることを考えている。

Q 出張所のあり方について

A 昨年11月に戸籍事務の電算化を導入し、出張所の事務量が一部軽減されたので、宮城野と仙石原の出張所については、本年4月より職員をそれぞれ1名減とした。今年度、各出張所の受付件数の調査を行い結果等により、今後の出張所職員の配置等の参考にしたいと考えているが、出張所は、地域のより所であり、身近な町役場として、大変重要な施設であると認識をしているので、住民にとってより望まれる出張所としてのあり方を調査研究してゆきたい。



観光

箱根町の観光振興について

村上 東司

Q 町内宿泊等事業者が多くさま変わりしております。この現状と町内への支援体制の現状と今後の考え方について

A 箱根町内には、現在平成23年7月現在で、旅館、ホテル、寮、保養所等を含めて479件の施設がある。観光客のニーズに合わせリニューアルする施設や、格安で提供できるホテル施設に変わったところも増えている。こうした格

を中心支援策を実施してきた。本支援策については、本年度も引き続き、一部補助事業を実施している。現在の町内事業者への支援体制としては、町内金融機関から1,000万以上の事業性設備融資に対して、利子補給を

実施している。また、予算の範囲において、町内中小企業者へアドバイザーを派遣し、経営の安定や活性化を図っている。町が間接融資を行う単独の融資制度は現在ないが、国、県の融資制度、または商工会議所の融資制度をご利用いただき、その公的融資制度利用者の負担軽減を目的として、融資実行時に支払う信用保証料については、引き続き補助金交付事業を行い、町内中小企業者の支援を行って

地域振興緊急特別融資制度の新設、小規模事業者経営改善資金、いわゆるマル経の利子補給制度の新設、信用保証料の補助事業の予算規模の拡大という3本の柱



湯本駅周辺